　ワーク１－１：あなたがワークブックで取り組む事例にテーマを付けてください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク１－２：あなたの所属機関・組織とあなたの所属機関・組織内での位置について、説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク１－３：本事例の概要を説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク１－４：あなたが本事例を選んだ理由を説明してください。

|  |
| --- |
|  |

ワーク２－１：ソーシャルワーカーとして、価値・倫理を理解することの意味を説明しましょう。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク２－２：社会正義

|  |
| --- |
|  |

　ワーク２－３：人権

|  |
| --- |
|  |

　ワーク２－４：集団的責任

|  |
| --- |
|  |

　ワーク２－５：多様性尊重

|  |
| --- |
|  |

　ワーク２－１～５で使用した文献：

|  |
| --- |
|  |

　ワーク２－６：原理に含まれる各内容が相互にどのように関係にあるのか、説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク２－７：自分自身の実践との関係から、倫理綱領に基づいた判断・行動について説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク２－８：次の倫理的判断のプロセスについて、調べて説明してください。

・倫理的意思決定のプロセス（Reamer,1999）

・意思決定の指針（Reamer,1999（横山訳・秋山監訳））

・倫理的な意思決定のための確認事項（Dolgoff, Harrington, & Loewenberg, 2009）

・倫理原則（Dolgoff, Harrington, & Loewenberg, 2009）

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－１：相互作用モデルである、①システム理論、②エコロジカルモデル、③バイオ・サイコ・ソーシャルモデル（BPSモデル）について説明してみましょう。

　①システム理論

|  |
| --- |
|  |

　②エコロジカルモデル

|  |
| --- |
|  |

　③バイオ・サイコ・ソーシャルモデル（BPSモデル）

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－２：ご自身がソーシャルワーク実践で活用した介入理論について、主に活用したものを４つ選んで説明してみましょう。

　活用した介入理論①

|  |
| --- |
|  |

　活用した介入理論②

|  |
| --- |
|  |

　活用した介入理論③

|  |
| --- |
|  |

　活用した介入理論④

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－３：ご自身が振り返ろうとしているソーシャルワーク実践の対象にはどのようなシステムが存在するでしょうか？下記の欄に図で記入してみましょう。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－４：ご自身が振り返ろうとしているソーシャルワーク実践の対象を図でご記述ください。その上で、その境界線（バウンダリー）がオープン・システムであるのか、クローズ・システムであるのか、またご自身がそのシステムに介入する際に、誰を（何を）ゲートキーパーにして介入をしようと試みたのか、その根拠を含めて図で記入してみましょう。

|  |
| --- |
|  |

　作成した図を文章化してみましょう。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－５：ご自身の所属する組織（システム）を図で記入してみましょう。その上で、その境界線（バウンダリー）がオープン・システムであるのか、クローズ・システムであるのかも記述してみましょう。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－６：ご自身が振り返ろうとしているソーシャルワーク実践の対象となるシステムが、変化や発展へと向かう傾向があるのか、逆に、恒常性を維持するために構成員や構成システムの行動や変化が制限されているのかなどについてご記述ください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－７：ご自身が振り返ろうとしているソーシャルワーク実践の対象となるシステム内のルールを探してみましょう。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－８：ワーク３－４で記述した図を活用して、構成員同士、システム間、構成員とシステム間の相互作用を図に書き込みましょう。どのような相互作用が存在するのか説明を加えてみてください。

|  |
| --- |
|  |

　作成した図を文章化してみましょう。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－９：ご自身が振り返ろうとしているソーシャルワーク実践の対象となるシステム内に何が起こっているかについて記述してみましょう。

|  |
| --- |
|  |

ワーク３－１０：ご自身が振り返ろうとしているソーシャルワーク実践の対象となるシステム内の個々の構成員、係わる人びと、組織（システム）から「今、ここ」の状況がどのように認識、知覚されているか、振り返ってみましょう。根拠となる具体的な言動も記述してみてください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－１１：ワーク３－５で記述した図を活用して、ご自身の所属する組織（システム）を再度、図で記入してみましょう。その上で、上記の①から⑥までの視点で振り返ってみましょう。

|  |
| --- |
|  |

上の図を文章にしてみましょう。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－１２：ご自身のソーシャルワーク実践では、人の変化、環境の変化、人と環境の交互作用のいずれにアプローチしたのかについて振り返ってみましょう。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－１３：ご自身の実践の対象であるクライエントのHabitatとNicheについて振り返って見ましょう。

　Habitat（ハビタット）

|  |
| --- |
|  |

　Niche（ニッチ）

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－１４：ご自身のソーシャルワーク実践の対象であるクライエントに影響を与えるパワーにはどのようなものがあるでしょうか？また、そのパワーはクライエントにどのような影響を与えているでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－１５：ご自身のソーシャルワーク実践の対象であるクライエントに影響を与えているライフコースを辿ってみてください。クライエントにどのような影響を与えているでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

ワーク３－１６：ご自身のソーシャルワーク実践の対象であるクライエントにとって、ストレッサーは何であるのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　ストレッサーにより生じたストレスはどのようなものであるのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　クライエントはストレッサーをどのように認識しているのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　ストレッサーによって、クライエントにどのようなことが生じているのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　クライエントは、ストレッサーに対処、対応した結果、どのようなことが生じたのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　クライエントは、ストレッサーに対処、対応するためにどのような社会資源（制度、人、能力、才能など）を活用したのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　ワーク３－１７：ご自身のソーシャルワーク実践の対象であるクライエントのリジリエンスをアセスメントしてみましょう。

　クライエントは、自身を取り巻く環境をどのように認知しているのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　クライエントは、環境とどのような取引をしているのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　クライエントを支える人間関係、人々の存在は、どのような存在なのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　クライエント自身、自身の環境をどのようにコントロールしているのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　クライエントは、どのような信念を持って生きているのでしょうか？

|  |
| --- |
|  |

　以上のワーク３－１からワーク３－１７まで取り組んだ上で、事前課題１－３・１－４に取り組んでください。

ワーク４－１：ジェノグラムで図式化される内容について、ソーシャルワークにおいて活用することの目的、期待できる利点と留意点について以下にまとめて説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク４－２：ジェノグラムの標準的な凡例、記入方法に従って、ご自身が振り返ろうとしているソーシャルワーク実践に関わるクライエントの家族の構造、関係性を描いてください。（もし、振り返る実践が組織や機関に対するものであれば、その実践に関わる一番近いクライエントを抽出して、ワークに取り組んでください。）

|  |
| --- |
|  |

　ワーク４－３：上記のジェノグラムから、家族システムにおいて確認できた家族構造や家族構成、家族のライフサイクルにおける変化や機能など、ご自身の実践へ関わる気づきを説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク４－４：エコマップについて、その特質を確認し、活用の利点と留意点を説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク４－５：エコマップの凡例、記入方法に従って、ソーシャルワーカーとしてのご自身，自身が所属している組織を中央にして、ソーシャルワーク実践におけるエコマップを描いてください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク４－６：上記のエコマップから確認できたご自身のソーシャルワーク実践における環境との関わりや相互作用について気づきを説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１：ご自身が取り上げた実践において、インテークの段階で捉えることができたクライエントの主訴は何ですか。また、主訴の背後にあるニーズは何だと思いましたか。そのように捉えた理由も一緒に説明してください。

①クライエントの主訴

|  |
| --- |
|  |

　②クライエントのニーズとそのように捉えた理由

　<クライエントのニーズ>

|  |
| --- |
|  |

　<捉えた理由>

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－２：ご自身が取り上げた実践において、インテークの段階でクライエントのワーカービリティをどの様に捉えましたか。その理由も一緒に説明してください。

　①ワーカービリティ

|  |
| --- |
|  |

　②捉えた理由

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－３：ご自身が取り上げた実践において、インテークの段階でスクリーニングのためにどの様な情報収集を行いましたか。それを基に行った援助の受理と介入方針の決定では、何が決め手になりましたか。

　①スクリーニングのための情報収集

|  |
| --- |
|  |

　②受理・介入方針決定の決め手

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－４：ご自身が取り上げた実践において、「アセスメントの時点」のエコマップを書きなさい。その際、必ず援助者としてのご自身も記載されていることが大切です。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－５：ご自身が取り上げた事例において、アセスメントで収集したクライエントに関する情報をストレングスの視点で整理してください。その際、次の４つの種類で整理してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 性質・性格 | 技能・才能 | 環境 | 関心・願望 |
|  |  |  |  |

　ワーク５－６：ご自身が取り上げた実践において、アセスメントの段階でクライエントの問題認識と受容の程度をどの様に捉えましたか。その様に捉えた理由も説明してください。

　①クライエントの問題認識と捉えた理由

|  |
| --- |
|  |

　②クライエントの問題の受容程度と捉えた理由

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－７：ご自身が取り上げた実践において、クライエントシステム、ターゲットシステム、チェンジエージェントシステム、アクションシステムは何であると捉えたかを示し、その様に考えた理由を述べてください。

　①クライエントシステムと理由

|  |
| --- |
|  |

　②ターゲットシステムと理由

|  |
| --- |
|  |

　③チェンジエージェントシステムと理由

|  |
| --- |
|  |

　④アクションシステムと理由

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－８：ご自身が取り上げた実践において、介入理論は何を用いましたか。またそれを選んだ理由を述べてください。

　①選んだ介入理論

|  |
| --- |
|  |

　②選んだ理由

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－９：社会資源の種類とその例を述べてください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１０：ソーシャルワークの介入において、必要に応じて援助者はソーシャルアクションやアドボカシーを行います。ご自身が取り上げた実践において行ったソーシャルアクションやアドボカシーについて何を、いつ、だれと、どの様に行ったのか説明してください。それを行った理由も一緒に述べてください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１１：スーパービジョンの形態を上げ、さらにスーパービジョンが果たす機能を述べてください。

　①スーパービジョンの形態

|  |
| --- |
|  |

　②スーパービジョンの機能

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１２：スーパービジョンとコンサルテーションの違いについて説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１３：チームアプローチ(多職種・多機関連携)の必要性について説明してください。またご自身が取り上げた実践においてどの様なチームアプローチの形態を取りましたか、またそれはなぜですか。

　①チームアプローチの必要性

|  |
| --- |
|  |

　②ご自身の事例におけるチームアプローチの形態とその形態を取った理由

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１４：ケースカンファレンスの運営手順について説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１５：ご自身が取り上げた実践において、倫理綱領に基づいて行った援助を1つ取り上げ、社会福祉士の倫理綱領に基づいたあなたの判断と、その結果実際に行った内容を説明しなさい。倫理的ジレンマに陥った場面があった場合は、それを取り上げなさい。

　①場面

|  |
| --- |
|  |

　②倫理綱領に基づいた判断とその結果実際に行った内容

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１６：ご自身が取り上げた実践において、モニタリングを通じてフィードバックした場面を取り上げてください。クライエントあるいはクライエントを取り巻く環境にどの様な変化があり、どの様に援助を変更したかを述べてください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１７：ご自身が取り上げた実践の援助終結の決定をした理由は何ですか。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１８：支援を終結する際、効果測定を行う必要性について説明してください。

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－１９：ご自身が取り上げた実践の援助を終結する際に用いた効果測定方法は何ですか。それを用いた理由も説明してください。

　①用いた効果測定法

|  |
| --- |
|  |

　②用いた理由

|  |
| --- |
|  |

　ワーク５－２０：ご自身が取り上げた実践の終結でのエコマップを書いてください。その上で、ワーク５－４で書いたエコマップと見比べ、気づいたことを書いてください。

　①終結の段階でのエコマップ

|  |
| --- |
|  |

　②ワーク５－４と比較し、気づいた点

|  |
| --- |
|  |